

---

一次救急医療機関における防災訓練  
—多数傷病者受け入れ訓練から院内防災マニュアル作成への一考察—  
(奈良かな子、日本集団災害医学会誌 17: 182-189、2012)  
2015年9月4日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

### 【序論】

阪神淡路大震災の経験より災害時における医療体制が整備されてきている。重症傷病者の受け入れは近隣の災害拠点病院に搬入が集中すると考えられるが、中等症や軽傷の患者は周辺の中小病院での受け入れが必要となることもある。しかし、多数傷病者受け入れ訓練の研究報告は、二次救急や三次救急医療機関のものが多くあるが、院外からの協力を経て一次救急医療機関で実施した報告はわずかであった。本研究における病院では常勤医が減少し、救急告示を取り下げた病院であるが医療過疎地であるため救急患者を受け入れている現状にあり、災害時にも地域住民の受け入れが予想される。これまでは毎年火災訓練を行っているものの、これまで多数傷病者受け入れ訓練を行ったことがなかった。そのため、これまでの災害時には市の防災マニュアルに基づき活動したが、病院独自のマニュアルがないため災害のたびに職員の役割分担を行うなど迅速な災害対応ができなかった。

### 【目的】

一次救急医療機関で、院外からの協力を得て多数傷病者受け入れ訓練を実施した報告は少ない。そこで、今回職員の防災意識を高め、防災マニュアル作成に結び付けることを目的に受け入れ訓練と、その後の訓練に関するアンケートを行った。

### 【方法】

#### 1) 事前準備

看護部を対象に、夜勤での地震発生時の初動対応と入院患者の避難誘導の机上シミュレーションを行った。そのなかで仮称の本部へ報告した内容をまとめ、院内の「災害時情報収集用紙(仮)」を作成した。多数の模擬患者やトリアージタグを用意することができなかったため紙により代用した。また、実際の入院患者や外来患者の混乱を防ぐため、事前に各部署への回覧や当日に院内放送でのアナウンスを行った。

#### 2) 多数傷病者受け入れ訓練

一回目の受け入れ訓練では 50 名の傷病者受け入れ訓練と火災訓練として初期消火活動と数名の独歩患者の誘導を実施した。その後講評を受け 10 分の作戦会議後、2 回目に 100 名の傷病者受け入れ訓練を行った。

#### 3) 訓練後のアンケート調査

病院職員は訓練への参加に関わらず全職員 113 名と、訓練に参加協力が得られた委託職員 5 名の計 118 名。回収数 86 名。無記名自記式質問用紙。防災訓練の必要性や防災マニュアルの必要性に対する意見や、参加者には防災訓練に対するイメージや理解度、「災害時情報収集用紙」に対する意見

などについて質問を行った。

### 【多数傷病者受け入れ訓練の状況】

#### ○1回目の訓練の評価

本部から「災害時情報収集用紙(仮)」を活用し2度報告があり院内の状況が分かりやすかった。しかし、職員の応援は傷病者受け入れ開始から外来の患者状況が把握できず考慮できなかった。トリアージポストではトリアージは順調だったが、誘導係の人数不足により傷病者が滞った。赤担当の看護師からはスペースが狭いなどの問題点があげられた。

#### ○2回目を終えての評価

架空の県庁への応援要請など、一次救急医療機関で行うことがないと思っていた貴重な経験ができた。トリアージポストにおいては傷病者は増えたものの担当者の増員と、誘導方法の変更により滞ることはほとんどなかった。赤の傷病者の対応では配置換えやスペース拡大により使いやすくなったが1名の医師での対応は大変であった。他にも薬剤や酸素ボンベの準備についてなどの問題もでた。2回目は縦横の連携もよくなり同日に同じ内容で2回訓練した成果と考える。

### 【アンケート結果】

防災イメージについては多くの人が変化したと回答。一方で災害医療に対する理解度では理解していない人がしている人を上回った。また、防災訓練にたいしてはほとんどの人が必要だと思うと回答しており、今回参加できなかった人も多くは参加したいと回答している。防災マニュアルについても税員が必要だと思うと回答しており、早く作成した方がよいという意見があった。

### 【考察】

今回の訓練より何らかの手段で全職員が災害を認識し速やかに災害活動に移行できる方法の検討が必要と考えられた。また、限られた職員での効率的な役割分担をする必要があると考えられた。そのためにはトリアージできる看護師など職員の育成・教育が重要であると考えられる。それに加え院外への応援要請のマニュアル化などは一次救急医療機関のみならず災害拠点病院以外のすべての医療機関に備える必要がある。そのためには他機関から協力の得やすいような関係づくりも重要である。

今回の訓練によって「災害時情報収集用紙(仮)」が作成でき、これを病院独自の防災マニュアルの作成に結びつけることが重要であると考え、平成25年度は「災害時情報収集用紙一報・続報」を完成させ、病院独自の防災マニュアルの作成を進めている。

今後は、避難患者の入院や帰宅の振り分け、搬送時の訓練など趣向を変え防災訓練を定期的に実施していく必要がある。